

式 辞

皆さんの大阪観光大学へのご入学、おめでとうございます。大学の代表として皆さんのご入学を心より歓迎いたします。

この数年来のコロナ禍の世界的蔓延は、観光を楽しもうとする一般市民にとって、また観光を実現する環境を提供してきた関連事業者や地域にとって、非常に大きな打撃となってきました。観光への打撃はこれだけではありません。地震、洪水、山火事といった大規模な災害も日常的となりました。地球温暖化を始めとして、被害の大規模化には程度の差はあれ人為的な作用が働いています。

さらにまた、ウクライナ戦争を始めとして世界各地で紛争が頻発していますが、これらもまた観光に大きな打撃をもたらしています。国連はかつて、「観光は平和へのパスポート」と決議しています。観光と平和は表裏の関係にあります。「Tourism for peace」ということを、今こそ声高に叫ぶべき時です。大阪観光大学は、その先頭に立つ決意です。

それにもかかわらず、産業面では、観光関連産業は世界経済の中心であり続けています。コロナ禍等で一時的に落ち込んだとしても、やがては回復し、さらなる役割が期待され、発展をたどることは間違いありません。生

活の面でも、日常から離れた空間での自然や社会での様々な体験は、もはや不可欠な人生の一部であると言っていいでしょう。

さて、本学は、観光という文字を大学名に含む、日本で唯一の四年制大学です。皆さんの学年からは、学科も観光学科一学科で構成されます。こうした実体を持つ大学として、本学では端的に言えば、「自由を共に楽しみ、社会を共に生きぬく」をスローガンとしています。

一般に自由時間に行う余暇活動は、「自由を共に楽しむ」ということを基本原理としています。観光はこうした余暇活動一般の中でも、ふだん触れられない自然空間・社会空間に入り込む（「非日常空間への移動」）ことから、その楽しさは特別です。同時に、観光関連産業は、世界最大のサービス業として既述のように現代のサービス経済を代表する産業部門であり、衰退に悩む地域社会を再生する切り札としての位置にあります。こうした社会の中にあつて、諸課題の達成に向けて競争社会を「生きぬく力」が必要になります。

こうした考え方から、昨年度より開始した本学の新しいカリキュラムでは、「楽しむ力」と「生きぬく力」を二本柱とした、体系的な科目群を配置しています。その特徴は、何よりも「楽しむ力」にあるので、以下その点をもう少し敷衍しておきましょう。

知らない場所で名物料理を食べるのも、観光の大きな楽しみの一つです。しかし、食をどのように楽しめるかは、味覚の発達に依存します。あるいは、美しい景色をみてどのように感動するかは、その人の人生経験を背後に持つ美意識のあり方に依存します。ピアノの演奏を楽しむためには、日々の練習による演奏技術の発達が条件となります。もちろん、「楽しむ力」は、それほど意識的な鍛錬をしなくてもある程度は発達しますが、こうした例からわかるように、教育と訓練によってその水準は大きく変わります。

また、とくに強調しておきたいことは、現代社会では、人生を楽しむ上で、コミュニケーションを通じて他者とわかりあい共感するということが、過去のどの時代にもまして重要となっていることです。

例えば、スポーツ競技は選手による創造行為であり、観客はこれを鑑賞します。このとき、選手と観客の間には応援・激励という形で一つの共感・共鳴空間が形成されます。私達は様々な部面で、ある時はプレーヤーとしてある時は観客として、常にコミュニケーションが必要な時代に生きています。

社会に出て働くということを考えても、その仕事の多くは組織の中で、誰かと一緒に共同作業として行います。このとき、お互いが分かり合えて共感できるのか、逆にわかりあえない状態が常になるのかは、生きがい、したがってまた幸福度に大きく影響します。

観光こそは、好きな鑑賞や創造行為を通じて人と人が出会いふれあう機会の象徴です。グローバル化した現代社会では、さらに世界の人々との交流が普通となり、とりわけ観光を通じて異文化交流を促進することが期待されます。今年もここに八つの国と地域の学生が集まっていますが、留学生が多数を占める本学は、キャンパス自体が、異文化交流の格好の場となっています。

これから皆さんには、四年間の学生生活を通じて、自分の好きな世界を発見・具体化し、そのための学習活動やクラブ活動に積極的に取り組むことを通じて、「楽しむ力」を高めていただきたいと思います。そして、異文化交流を通じて、ますます世界の人々の気持ちを理解できる人間として、成長を遂げて行って欲しいと思います。どれだけそれができるかは、皆さん自身の決意にかかっています。私たち教職員は、そうした皆さんの日常を全力で支援していきます。

二〇二三年四月二日

大阪観光大学学長

山田良治